



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

石川県 金沢市立犀生中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- **目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- **事業名** : JOCオリンピック教室
- **主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- **後援** : スポーツ庁
- **協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- **対象** : 中学2年生
- **講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- **期間** : 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- **実施校数** : 80校程度
- **実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基
づく「オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日** : 2023年2月3日(金)
- **ク ラ ス** : 2年1組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スケート/フィギュアスケート競技でバンクーバー2010冬季大会に出場したと自己紹介。今日の2時間を通して、オリンピックとは、どのような大会なのか、オリンピックシンボルには、どのような意味が込められているのか等について、一緒に考えていきたい。運動の時間では、オリンピックバリューの3つの言葉である、エクセレンス：「卓越」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ：「友情」「仲間を大切に」、リスペクト：「敬意/尊重」「ルールを守る」を意識しながら取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備体操として、ストレッチをした後、サイドステップ等の「サーキットトレーニング」、「新聞紙じゃんけんバランス」を実施(全2回)。
・主運動として、「ボール渡しリレー」を実施(全2回)。ルールの意味を考え、バレーボールを手渡ししながら、折り返し地点のコーンを回って戻る順位を競う。



・運動の時間を振り返り、作戦タイムでは、決められたルールの中で、皆で意見を出し合いながら、様々な作戦を立てて実践してくれた。ただ体を動かすだけではなく、またルールを一人で理解するだけではなく、皆で協力しながらルールの内容を考えることが大切である。座学の時間は、オリンピック出場に至るまでの経験について、オリンピックバリューを考えながら、皆の日常生活の中に、どのように繋がっているのか、一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日** : 2023年2月3日(金)
- **ク ラ ス** : 2年1組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・運動の時間を振り返り、一生懸命に頑張ることは体を動かすことだけではなく、考えることも大切である。ルールを考えながら、理解して取り組んでいたことは素晴らしい。オリンピックシンボルについて、5つの輪は5大陸を表し、背景の白を含めた6色でほとんどの国旗が描ける。近代オリンピックの父ピエール・ド・クーベルタンが伝えたかった理想の人間像とは、自己を知り、自己を律し、自己に打ち克つことのできる人間であり、スポーツを通じて、より良い世界を作りたいと考えていた、と伝える。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



- 発問(個人ワーク) : 運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。
- 発問(グループワーク) : 期末テストに向けて、教科を絞り、その教科を頑張るために、オリンピックバリューをどのように活かせるかを考えてみよう。
- 発表 : エクセレンス : 「英語の文法を諦めずに一生懸命覚える」「数学の苦手な部分を勉強する」「国語の問題文をしっかり読みヒントを探す」等
- フレンドシップ : 「英語で分からないことはお互いに助け合う」「数学の苦手な問題の解き方を教え合う」等
- リスペクト : 「英語を教えてくれる先生に感謝する」「英語を教えてくれた仲間に感謝する」「国語のテストでカンニングしない」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックと聞くと遠い存在に感じるかもしれないが、今日の2時間を通して、皆が普段の生活の中で感じていること、取り組んでいることと同じで、身近な存在であることに気付いてほしかった。スポーツだけではなく、皆の日常生活の中にも、オリンピックバリューの3つの価値は存在する。これからはオリンピックバリューを頭の片隅に置きながら、何事にも考えながら挑戦してほしいと話し、授業終了。

■ 集合写真

・2年1組



■ 記念品贈呈

・2年1組



■ 修了証贈呈

